

おさかへんしつしつは是調子仁勇共
仁と似果

甲斐の徳也

以下天明中申周田子著撰者秘書
近世崎人傳

徳也永田氏信長武彦の側を巡り薬籠と肩く
甲斐の徳本一腹十六條と有り賣りしつ
小治りな時 大州病のり曲薬の諸醫を
看せし志る 一ふかりは誰か 徳也と
召し療と 一んりふふふ 平らせり
これ貴と 一ぬの物と 賜りしれ

散りしけと 例の一貼十うふ 薬料と
のみり 一たりれ 清白と稀 一り
ふれ 一上ふも 一るん 一れ 一
ゆふり 一由頻 一命き 一れ 一
我々の門小家うと 一思 一むの 一り 一是
家と揚 一ふふ 一賜り 一か 一
徳小即甲斐國山梨郡の比 一令と 一賜り
ぬやう 一其者と 一と 一と 一と
賣りし 一情と 一は 一ぬ 一徳 一と
しも 一れ 一と 一と 一と 一と 一と

号は近年刻々く薬方古くもいふ頗奇なり
某名も一家の徳名と申す

飛田窮樂

飛田中尾の書として鳴り窮樂の号とて志
しつゝの状もものもさういふくせいのうり
賣の樂府とてつ小娘は似し時莫道の交りと
浩ひく彼は樂との今是は酒とのいじ時りて
酒吾ぬ賣の樂府氣提く酒買のりりもりり
久はく後賣の樂府双丘の東畔小橋居梅雨

連月小及び茶と買出るる一酒筒傾有るく糧施
し時窮樂是とてさういふくさういひく暇しむ
時は前附とて倡倡流し見申

多謝持来親眼海尊甄充得養裏躬

或時大なる酒樽とてさういふくさういひく暇しむ
物とてさういふく酒のますはさういひきたる人
今くは事とてさういふは屏風さういふやうつ報し
人得させられそのまはるさういふえも知進ぬた
も酒ひく真入るさういふは樽のりもあられ

松本黙堂

松本黙堂は伊勢の松坂の人外科と業とに通庵
と女と一語と多禪と豪放の氣象も相似たれ
ありて室の中は通庵と女人の像と圓と
ついで相對と心息ひとあすといふ観音と信
自稱といひ観音といひ後ふり又いひ弥陀といふ
其盤子之末は乃ふも一旦石山よりくちい
と色といふを風水と由水と家いひ人と清
トといふ自らを場とあふ減み技とに
沈垢魚といふ指揮のまにに穿く必清泉

とほぬ又むくも渡りらんも能辨と玉り人々の出立と
と考り官ふて場といひ能辨直根いひ人今初とあ
為傳といひ話多し人うれもと具といひ記述と近來人
知れる悟心相あはげ人めり

近江の新六

近江蒲中郡常土の新六といふ実農ありて
よひりし僕も良人也其妹とて九向より交
孝ありしとくありしとく傾きしとく大和賜とありし
其折とありしとく早八幡の家ありしとく

對面... 思ひ... 唯... 心... 賞... 此... 他... 好...

れ... 解... 地... 有... あ... 思... 年... 時... 告... 思...

し端布改めしとて收ひと由り又しれははやと
うらやうに

うらやうに親ははくははははは

うらやうに人よ世よははははは

うらやうに思ひし書つてはははは

小車前

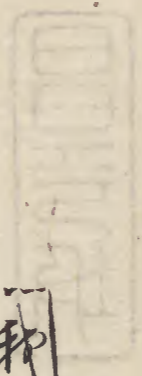
享保のしとて京よ小車とてははははは
り京よとてまはははははははははは
し流ははははははははははははははは

うらやうに人出うらやうに帝つてははははは
し後まははははははははははははははは
こははははははははははははははははははははは
都安と建うらやうに小車のえはははははははははは
建うらやうにははははははははははははははははははははは
うらやうにふははははははははははははははははははははは
うらやうにははははははははははははははははははははは

小西末山

末山を小西氏十男とてしははははははははははははははははははははは

南へ官村と出撫と為人懐生と拍子と酒と好む
の女夜醉と怪あつと白と道行と女
還平見とかたきと投と楸とこまんとも自ら衣取
といと寸二三目と神とゆとれと口人書とが
二身とこまんと官評と中より故と出され
よりぬ人といふ若しかりんとさあといふ
自然の類ひかこつとめとこまんと又いふ
の大ばぶとや口人よりあつと新煮の具と
酒と贈りきれと酒との合者と食ふ
之といふ能とこまんとやと煮と喰



和春と曹小志とあつと口号と書も
なりと昔の女人形の記といふ文章と志と
其中湯と春ぬ心つけまともけいぬの喰ぬ
といふといふと男はつこのまよやあつと
つるのいもせ物法やと筆ととまんと
櫻の花や見ると斗といふもやといふ文
章の上よりと教書とつれと昔の人
より得るとか程とて貸とて惜くえ申書と句
と人よ小繪文とほつと中筆の絵巻と糸丸
とくくけつと見ると人のうたれるその物

音んまゝに物と換ふと詞書しつ竹のまゝ竹
竹のまゝと竹の垣とつはるゝ状とくまゝ
思ふを莊者中へ能諧小息と俗人なれり
さうりらゝゝそれらも其辭世と謂ふは
まゝの體と死ぬるまゝの體とていふを
かゝるゝといふは



内閣文庫

